

松浦武四郎の歩み

「永遠のニシパ」を楽しく見るフォーラム資料 2019.6.4

- 1818 (文化15)年 伊勢国須川村(現松阪市小野江町)に4番目の子として生まれる。
生家は伊勢街道に面していた。
蝦夷地にはロシア船が出没。幕府が直轄地とした時代。
伊能忠敬が没した年でもある。
- 1833 (天保4)年 家出して江戸に向かう。
幼馴染に、江戸、京都、長崎、唐、天竺へ行くかもしれないとの手紙を送る。
漢学者の山口遇所宅に居候中、篆刻技術を習得する。
- 1844 (天保5)年 全国を巡る旅に出る。
紀伊半島→近畿→北陸→信濃→江戸→日光→仙台→水戸→江戸
四国→近畿→中国地方→九州
この頃、天保の大飢饉での惨状を目の当たりにする。
盗賊に襲われる。
- 1838 (天保9)年 長崎で疫病にかかり、危うく一命を取り留める。
臨濟宗の僧侶となり、平戸の千光寺の住職を3年務める。
- 1842 (天保13)年 長崎から対馬を経由して朝鮮半島に渡ろうとするも果たせず。
(イカの不漁に救われる)
- 1843 (天保14)年 長崎でロシア南下の話聞き、蝦夷地への関心を持つ。
郷里に帰り、両親の墓参りをする。
「西海雑誌」を執筆。
- 1844 (弘化元)年 「四国遍路道中雑誌」を執筆。
蝦夷地への旅に出発するも、高野長英脱獄事件の影響で取り締まりが厳しく、鯨ヶ沢から船に乗れず断念。
冬の津軽や下北半島をめぐる仙台経由で江戸に戻る。
- 1845 (弘化2)年 28才。始めて蝦夷地に渡る。(商人齊藤家の船にて江差に)
西へ行こうとしたが、松前藩の取り締まりが厳しく断念。
商人和賀屋孫兵衛の手代に身を変え、知床岬まで巡る。
「勢州一志郡雲出川南松浦竹四郎」標柱を建てる。

第1回 75日間



第2回 175日間



第3回 57日間



第4回 192日間



第5回 146日間



第6回 203日間



- 1846 (弘化 3)年 29才。2度目の蝦夷地探査。
江差で、頼三樹三郎と「一日百印百詩の会」を催す。
- 1849 (嘉永 2)年 32才。3度目の蝦夷地探査。
- 1855 (安政 2)年 幕府から蝦夷地御用御雇入の命を受ける。
- 1856 (安政 3)年 39才。4度目の蝦夷地探査。
- 1857 (安政 4)年 40才。5度目の蝦夷地探査。
- 1858 (安政 5)年 41才。6度目の蝦夷地探査。
「近世蝦夷人物誌」を完成させるも幕府から出版の許可が下りず。
明治45年に初めて活字となる。
- 1859 (安政 6)年 「按西・按東・按北扈從録」全32冊・
「丁巳東西蝦夷山川地理取調日誌」全23冊・
「戊午東西蝦夷山川地理取調日誌」全62冊が完成。
「東西蝦夷山川地理取調図」全28冊・
「蝦夷漫画」・「蝦夷地名奈留辺志」を出版する。